

第4回記者会見資料
2015.1.30

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015
全参加作家発表ならびに展示内容について

Kyoto
International
Festival
of
Contemporary
Culture

PARASOPHIA

広報に関するお問合せ

京都国際現代芸術祭組織委員会事務局（PARASOPHIA事務局） 担当：大西、平

MOBILE: 080-9684-9100 E-mail: press@parasophia.jp

URL: www.parasophia.jp/press

■ PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 開催にあたり

アーティスティックディレクター
河本信治

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015は、京都市美術館全館と京都府京都文化博物館を主会場に、京都市内の複数の会場で開催される、私たちの多くが待ち望んでいた大規模な現代芸術の国際展です。この展覧会には、いま、世界各地で興味深い制作を続けている36組の芸術家の作品が京都に集います。国際展の巨大化という世界的潮流の中で、10,000㎡以上の展示スペースを確保しながらあえて36組という規模で参加作家への十分な展示スペースの提供と細やかな支援を重視した、大き過ぎない、京都という都市にとっての適正規模となるでしょう。

PARASOPHIAは準備期間の2年間を通じて参加作家のほとんどを京都に招聘しました。作家たちは京都の歴史や文化遺産からだけでなく、人々の暮らし方からも多くのものを読み取り、京都と関わることで新しい作品に挑戦しました。京都市内の場所と出会い、その場の人々や歴史と対話することで新しいビジョンを得た作家たちもいます。作家たちの調査に協力した人たち、彼らと出会い対話を交わした人たちにも変化がありました。そしてその2年間を通じて数多く開催してきたオープンリサーチプログラムやパブリックプログラムは、「私たちが知らない興味深い思考や表現が世界にはたくさんある」という当たり前の事実を多くの方々と共有していくプロセスでした。

PARASOPHIAは、多様な表現や思考と出会う場であり、異質なものを容認し、排除ではなく敬意ある距離感を見つけていく経験のプロセスです。既に知っていることを再度確認する場＝娯楽／エンターテインメントではなく、参加作家と鑑賞者の双方を巻き込みながら、10年後、20年後の文化資産に繋がる、思考と創造の継続的で世界に開かれたプラットフォームを京都に根付かせることを目指します。

河本 信治 コウモト シンジ

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 アーティスティックディレクター

元・京都国立近代美術館学芸課長

京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科修士課程意匠工芸学専攻修了。1981年より京都国立近代美術館研究員。2006-10年まで同館学芸課長。「横浜トリエンナーレ2001 メガ・ウェイヴ：新たな総合に向けて」共同ディレクター。2003年に第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展金獅子賞パビリオン部門国際審査委員ならびにドクメンタ12総合ディレクター選考委員を務める。主な企画展に「アゲインスト・ネチャー：80年代の日本美術」（1989）、「プロジェクト・フォー・サバイバル——1970年以降の現代美術再訪：プロジェクト型〈意志的・投機的〉な実践の再発見に向けて」（1996）、「ウィリアム・ケントリッジ——歩きながら歴史を考える：そしてドローイングは動き始めた……」（2009）。

開催概要

名 称	PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015
会 期	2015年3月7日(土)–5月10日(日) 休場日:月曜日(ただし、3/9、5/4は開場。京都府京都文化博物館のみ4/27は開場)
会 場	京都市美術館、京都府京都文化博物館、京都芸術センター、堀川団地(上長者町棟)、 鴨川デルタ(出町柳)、河原町塩小路周辺、大垣書店烏丸三条店
アーティストック ディレクター	河本信治(元・京都国立近代美術館学芸課長)
主 催	京都国際現代芸術祭組織委員会、一般社団法人京都経済同友会、京都府、京都市
協 賛	一般財団法人池坊華道会、株式会社イシダ、裏千家 一般財団法人今日庵、オムロン株式会社、 株式会社学生情報センター、京セラ株式会社、京都監査法人、株式会社京都銀行、京都新聞、京都信用金庫、 株式会社京都製作所、京都中央信用金庫、株式会社クラウドディア、月桂冠株式会社、株式会社鴻池組、サムコ株式会社、 サンコール株式会社、サントリーホールディングス株式会社、三洋化成工業株式会社、株式会社資生堂、 株式会社島津製作所、親友会ホールディングス株式会社、宝酒造株式会社、タキイ種苗株式会社、株式会社淡交社、 株式会社トーセ、株式会社ナベル、日東薬品工業株式会社、日本新薬株式会社、日本写真印刷株式会社、 日本電産株式会社、株式会社長谷本社、パナソニック株式会社、株式会社フクナガ、公益財団法人フランダースセンター、 株式会社堀場製作所、株式会社増田医科器械、株式会社三井住友銀行、株式会社村田製作所、森トラスト株式会社、 株式会社コーシン精機、吉忠株式会社、ローム株式会社、株式会社ワコールホールディングス、 ワタキューセイモア株式会社、JR西日本京都グループ、株式会社SCREENホールディングス
協 力	京都国立近代美術館、京都工芸繊維大学、京都嵯峨芸術大学、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、 成安造形大学 ヴィラ九条山、ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川 アランヴェールホテル京都、Imagineering実行委員会、公益財団法人石川文化振興財団、ウェスティン都ホテル京都、 株式会社大垣書店、京都東急ホテル、株式会社クロスカンパニー、京都みなみ会館、ジャパンマテリアル株式会社、 大丸京都店、株式会社高島屋、株式会社ディーンアンドデラーカジャパン、ハイアット リージェンシー 京都、BAL、 ヤサカ自動車株式会社
助 成	平成26年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団、公益財団法人 朝日新聞文化財団、アンスティチュ・フランセ/フランス大使館、オーストリア大使館、公益財団法人花王 芸術・科学財団、 一般社団法人ニッシャ印刷文化振興財団、公益財団法人野村財団、公益財団法人ポーラ美術振興財団 *公益財団法人 京都地域創造基金助成事業に採択
後 援	国際交流基金、オランダ王国大使館、カナダ大使館、スイス大使館、タイ王国大阪総領事館、デンマーク王国大使館、 ノルウェー王国大使館、ブラジル大使館、ブリティッシュ・カウンシル
認 定	公益社団法人企業メセナ協議会
テクニカルサポート	京都造形芸術大学ウルトラファクトリー、SANDWICH
お問合せ	京都いつでもコール TEL: 075-661-3755(8:00–21:00)
ウェブサイト	www.parasophia.jp
公式SNSアカウント	Twitter twitter.com/parasophiaPR Facebook facebook.com/parasophiaJP YouTube youtube.com/user/parasophiaVideos Instagram instagram.com/parasophia



京都で初めてとなる大規模な現代芸術の国際展、世界の第一線で活躍する作家が集結

国際交流と文化の集積地・京都を舞台に世界の第一線で活躍する作家36組が参加するPARASOPHIA:京都国際現代芸術祭2015。主な会場は、京都市美術館と京都府京都文化博物館。歴史ある建物の全館が現代芸術で埋め尽くされるという今までにない空間が展開されます。美術館入り口にはやなぎみわの巨大な移動舞台車が出現。また、1階の大陳列室には高さ15メートルに及ぶ蔡國強の竹製の塔作品に京都の子どもたちが作った大量のオブジェが飾られるという大型作品が登場します。桜を見がてら立ち寄れるカフェやブックショップなども設置。また、明治時代の洋風建築のディテールがそのまま残る重要文化財、京都府京都文化博物館別館では、森村泰昌とドミニク・ゴンザレス＝フォルステルの作品を展示。この場所だからこそ表現できる独特の世界観を構築します。さらに、京都芸術センターにはアーノウト・ミックの映像インスタレーション作品、二条城の北側に位置する1950年代初めに建てられた店舗併存集合住宅のモデル、堀川団地には、ピピロッティ・リストや笹本晃、プラント・ジュンソーによる作品が出現。また、鴨川デルタにスーザン・フィリップスによる音の作品が設置され、河原町塩小路周辺にはベルリンの2人組ヘフナー/ザックス、書店のショーウィンドーにはリサ・アン・アワーバック、というように場所と作家の化学反応をみることができます。PARASOPHIAは私たちのものの見方や態度によって大きく印象が変わっていくものかもしれません。単純にみえる外見の裏に遠大な思考の蓄積を発見したり、途方もないイメージの奔流が日常ととても近いものであったり、毎日の馴染んだ景色が全く新しいものにかわったり、そんなことを見つける喜びや自分の中の変化をお楽しみください。

参加作家

36組38名 (19の国と地域)

チケット

一般 1,800(1,400)円、大学生 1,200(900)円、70歳以上 1,200(900)円

団体割引券 1,500円、大学生 1,000円、70歳以上 1,000円
パスポート 6,000円、大学生 4,000円、70歳以上 4,000円

*()内は前売り

- * 高校生以下及び18歳未満は無料
- * 前売券は2015年3月6日(金)までの販売
- * ガイドブックは入場時にお渡しします

前売券取扱窓口

- ・チケットぴあ(Pコード:766-551)
TEL: 0570-02-9999 WEB: pia.jp/t
- ・ローソンチケット(Lコード:56574)
WEB: l-tike.com
- ・イープラス WEB: eplus.jp

京都総合観光案内所、京都市交通局協力会(京都駅前案内所、コトチカ京都案内所、北大路案内所、烏丸御池案内所、太秦天神川案内所)、京都芸術センター、京都みなみ会館、アランヴェールホテル京都、大垣書店各店、ガクブチのヤマモト、京都東急ホテル、ジュンク堂書店京都店、大学生協京都トラベルセンター、NADiff(NADiff a/p/a/r/t, NADiff contemporary, gallery 5, Contrepoint, NADiff aichi)、MEDIA SHOP、六本木ヒルズ アート&デザインストアほか

【チケットに関するお問合せ】

PARASOPHIAチケットセンター
TEL: 06-6221-3138(10:00-18:00)

会期前後の様々なプログラム

シネマプログラム

京都府京都文化博物館フィルムシアターを会場に、会期中、上映プログラムを行います。ひとつは、参加作家に名を連ねる映画研究者アレクサンダー・ザルテンによる、1960年代から近年までの日本映画を中心に取り上げ「日本映画におけるアジア」に焦点を当てたプログラム。もうひとつは、参加作家笠原恵実子のセレクトによる満州映画などの上映。そのほかPARASOPHIA参加作家による映像作品など、20作品以上の上映を予定しています。

アレクサンダー・ザルテン

「アジアを照らさないミラーボール——日本映画のアジア」

上映期間：2015年4月7日(火)–19日(日)【一部、3月8日(日)上映予定】

1. 『白日夢』(武智鉄二、1964、110分、富士映画)
2. 『チュンモン(Chunmong)』(ユ・ヒョンモク、100分、1965)
3. 『サウダーチ』(富田克也、2011、167分、空族)
4. 『ホノルル・東京・香港』(千葉泰樹、1963、102分、東宝)
5. 『中国の鳥人』(三池崇史、1998、118分、セディックインターナショナル)
6. 『地球で最後のふたり』(ベン・エーグ・ラッタナルアーン、2003、117分、クロックワークス)
8. 『ディア・ピョンヤン』(梁英姫[ヤン・ヨンヒ]、2005、107分、シネカノン)
9. 『アジアはひとつ』(NDU、1973、96分)
10. 『アジア秘密警察』[日本版](松尾昭典、1966、97分、日活)
[香港版](松尾昭典、1967、92分、ショウブラザーズ)
11. 『あんにょん由美香』(松江哲明、2009、119分、SPOTTED PRODUCTIONS)
12. 『極東のマンション』(真利子哲也、2003、23分)
13. 『波濤を越える渡り鳥』(斎藤武市、1961、79分、日活)

笠原恵実子

「trigonometry」

上映期間：2015年3月10日(火)–15日(日)

1. 『白蘭の歌』(渡邊邦男、1939、102分、東宝、満映合同)
2. 『支那の夜』(伏水修、1940、東宝、満映、中華電影合同)
3. 『ハワイ マレー沖海戦』(山本嘉次郎、1942、東宝)
4. 『迎春花』(佐々木康、1942、満映、松竹撮影協力)
5. 『サヨンの鐘』(清水宏、1943、満映、松竹製作提携)
6. 『陸軍』(木下恵介、1944、松竹)
7. 『私の鷺』(島津保次郎、1944、満映、製作提携東宝)

※上映作品は変更になる可能性があります。

Parasophia Conversations

PARASOPHIAの調査研究のプロセスを広く共有するために2013年より行ってきたオープンリサーチプログラムの発展形のシリーズ。意見を戦わすディベートや、結論を求めるための討論ではなく、あるトピックから出発して予想外の方向へと進む会話を驚きとともに楽しみ、異なる意見の穏やかな共存を受け入れていく、リラックスした空気の中で行われるプログラムです。

Parasophia Conversations 02 森村泰昌×ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル

日時：2015年2月28日(土) 18:30

場所：京都府京都文化博物館 別館ホール

パブリックプログラム

作品に対する思索を深めたり、PARASOPHIAの方向性をより鮮明に紹介して考え方を共有するアクセスプログラムやワークショップなどをはじめ、作品や作家に対して様々な方法でアプローチするプログラムを提供します。

アクセスプログラム[レクチャー] クリスチャン・メルリオ(ヴィラ九条山館長)

日時：2015年2月5日(木) 18:00–19:30(17:30開場)

場所：京都芸術センター 和室「明倫」

蔡國強「子どもダ・ヴィンチ」ワークショップ

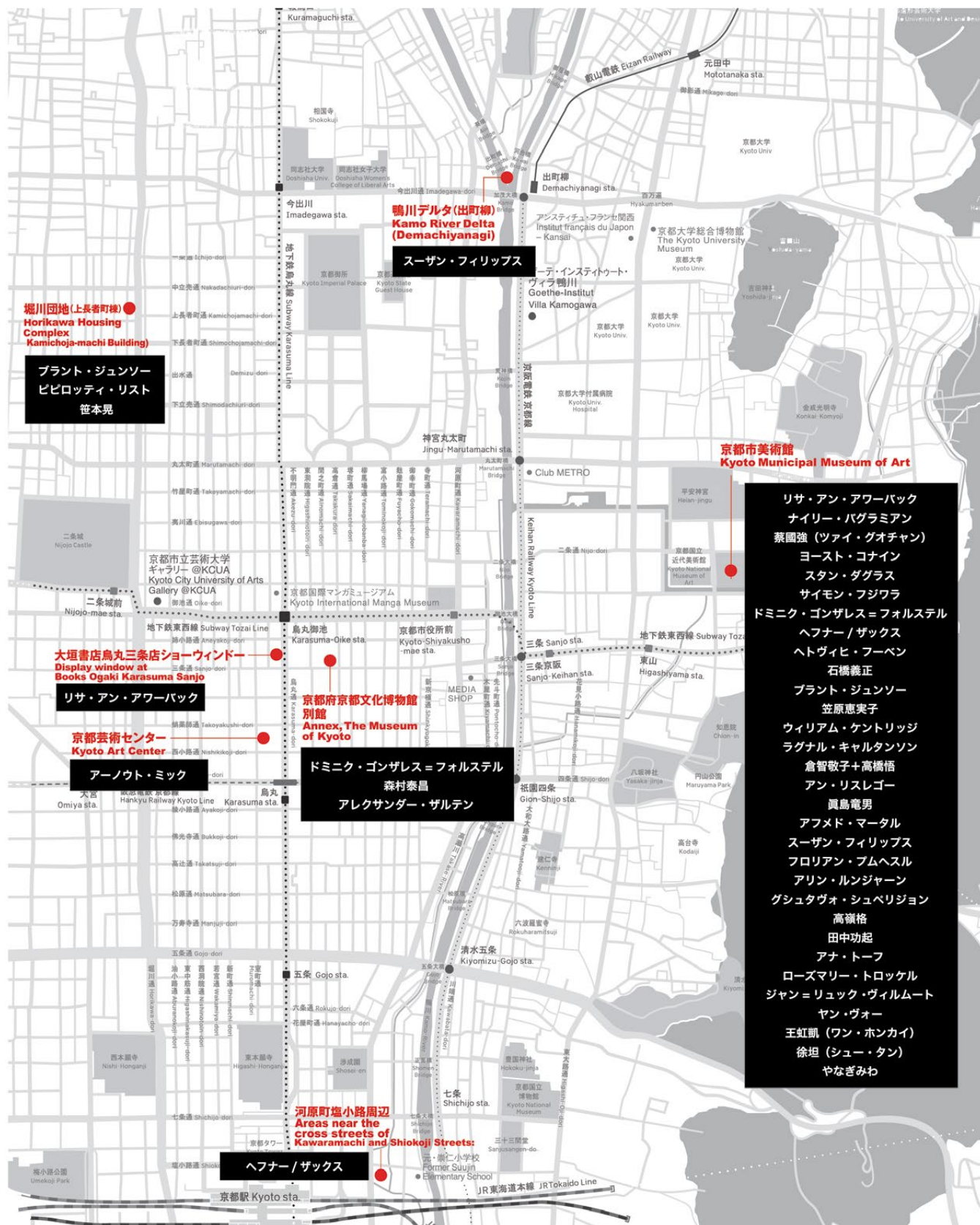
“大切なのは、飛べるということではない”——蔡國強

2014年秋からスタートした、蔡國強の作品「京都ダ・ヴィンチ」の要素のひとつである「子どもダ・ヴィンチ」のワークショップを会期中も定期開催します。京都市美術館の大陳列室に現れる大きな竹の塔(バゴダ)の下で、子どもたちが身の回りにある材料を使って自由に作品を制作します。子どもたちの豊かな創造力によって制作された作品は、随時バゴダに展示される予定です。

Parasophia Classroom

京都市美術館内の展示室の一角を一時的なPARASOPHIAのための教室とし、参加作家によるレクチャーやワークショップなどを開催します。また主催者が用意するプログラムだけではなく、訪れた人が自分で組み立てたプログラムを実現するばや、自主的な学習のための資料提供やサポートなどを、活用の工夫次第で様々な可能性をはらむPARASOPHIAの重層的な空間で提供します。

会場について



会場

京都市美術館



写真：福永一夫

開館時間：9:00–17:00

(3/27–4/12、4/29–5/10は19:00まで開館。最終入館は30分前まで)

休館日：月曜日(ただし、3/9、5/4は開館)

京都市左京区岡崎円勝寺町124(岡崎公園内)

京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩10分

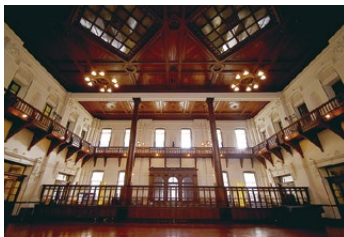
SOPHIA BOOKSTORE by Books OGAKI

京都市美術館・大陳列室内にPARASOPHIAのためのブックショップが登場。PARASOPHIAの作家関連の書籍はもちろん、洋書・古書・美術の専門書を含む、芸術を広く深く知り楽しんでいただけるための書籍を取り揃えます。

PARA CAFE

京都市美術館東側入り口に特設のカフェコーナーを設置。京都・八坂の塔の西側にある「%ARABICA KYOTO」のコーヒーを、東山を望める公園のそばで楽しめます。

京都府京都文化博物館 別館



開館時間：10:00–19:00(最終入館は30分前まで)

休館日：月曜日(ただし、3/9、4/27、5/4は開館)

京都市中京区三条高倉

京都市営地下鉄「烏丸御池」駅5番出口から三条通を東へ徒歩3分

本館3Fフィルムシアターは別途、プログラムをご確認ください

■ 下記会場は入場無料

京都芸術センター

10:00–19:00(最終入場は30分前まで)

京都市中京区室町通蛸薬師下ル山伏山町546-2

堀川団地(上長者町棟)

10:00–19:00(最終入場は30分前まで)

京都市上京区西堀川通長者町上る皂莢町 堀川団地上長者町棟1階

鴨川デルタ(出町柳)

10:00–18:00 / 賀茂川・高野川合流部

河原町塩小路周辺

10:00–19:00 / 京都市下京区下之町

大垣書店烏丸三条店 ショーウィンドー

京都市中京区烏丸通三条上ル御倉町85-1 烏丸ビル1F

参加作家一覧

リサ・アン・アワーバック	Lisa Anne Auerbach	1967年アナーバー（アメリカ）生まれ、ロサンゼルス在住	
ナイリー・バグラミアン	Nairy Baghramian	1971年エスファハーン（イラン）生まれ、ベルリン在住	
蔡國強（ツァイ・グオチャン）	Cai Guo-Qiang	1957年泉州（中国）生まれ、ニューヨーク在住	
ヨースト・コナイン	Joost Conijn	1971年アムステルダム（オランダ）生まれ、在住	
スタン・ダグラス	Stan Douglas	1960年バンクーバー（カナダ）生まれ、在住	
サイモン・フジワラ	Simon Fujiwara	1982年ロンドン（イギリス）生まれ、ベルリン在住	
ドミニク・ゴンザレス＝フォルステル	Dominique Gonzalez-Foerster	1965年ストラスブール（フランス）生まれ、パリおよびリオデジャネイロ在住	
ヘフナー/ザックス	Hoefner/Sachs	フランチ・ヘフナー：1970年シュタルンベルク（ドイツ）生まれ、ベルリン在住 ハリー・ザックス：1974年シュトゥットガルト（ドイツ）生まれ、ベルリン在住	
ヘトヴィヒ・フーベン	Hedwig Houben	1983年ボクステル（オランダ）生まれ、ブリュッセル（ベルギー）在住	◎
石橋義正	Yoshimasa Ishibashi	1968年京都（日本）生まれ、在住	
ブランド・ジュンソー	Brandt Junceau	1959年ニューヨーク生まれ、ニューヨークおよびベルリン在住	◎
笠原恵実子	Emiko Kasahara	1963年東京（日本）生まれ、藤沢在住	
ウィリアム・ケントリッジ	William Kentridge	1955年ヨハネスブルグ（南アフリカ共和国）生まれ、在住	
ラグナル・キヤルタンソン	Ragnar Kjartansson	1976年レイキャビク（アイスランド）生まれ、在住	◎
倉智敬子+高橋悟	Keiko Kurachi & Satoru Takahashi	倉智敬子：1957年大阪（日本）生まれ、在住 高橋悟：1958年京都（日本）生まれ、大阪在住	◎
アン・リスレグー	Ann Lislegaard	1962年トンスベルグ（ノルウェー）生まれ、コペンハーゲンおよびニューヨーク在住	
眞島竜男	Tatsuo Majima	1970年東京（日本）生まれ、川崎および別府在住	
アフメド・マータル	Ahmed Mater	1979年タブーク（サウジアラビア）生まれ、アブハー、ジッラおよびメッカ在住	◎
アーノウト・ミック	Aernout Mik	1962年フローニンゲン（オランダ）生まれ、アムステルダム在住	
森村泰昌	Yasumasa Morimura	1951年大阪（日本）生まれ、在住	◎
スーザン・フィリップス	Susan Philipsz	1965年グラスゴー（イギリス）生まれ、ベルリン在住	
フロリアン・プムヘスル	Florian Pumhösl	1971年ウィーン（オーストリア）生まれ、在住	
ピピロッティ・リスト	Pipilotti Rist	1962年グラース（スイス）生まれ、チューリヒ在住	
アリン・ルンジャン	Arin Rungjang	1975年バンコク（タイ）生まれ、在住	
笹本晃	Aki Sasamoto	1980年横浜（日本）生まれ、ニューヨーク在住	
グシュタヴォ・シュペリジョン	Gustavo Speridião	1978年リオデジャネイロ（ブラジル）生まれ、在住	◎
高嶺格	Tadasu Takamine	1968年鹿児島（日本）生まれ、秋田在住	
田中功起	Koki Tanaka	1975年益子（日本）生まれ、ロサンゼルス在住	
アナ・トーフ	Ana Torfs	1963年モルツェル（ベルギー）生まれ、ブリュッセル在住	
ローズマリー・トロツケル	Rosemarie Trockel	1952年シュヴェーアテ（ドイツ）生まれ、ケルン在住	
ジャン＝リュック・ヴィルムート	Jean-Luc Vilmouth	1952年クレウツヴァルド（フランス）生まれ、パリ在住	◎
ヤン・ヴォー	Danh Vo	1975年バリア（ベトナム）生まれ	
王虹凱（ワン・ホンカイ）	Hong-Kai Wang	1971年虎尾（台湾）生まれ、ウィーンおよび台北在住	
徐坦（シュー・タン）	Xu Tan	1957年武漢（中国）生まれ、広州およびニューヨーク在住	◎
やなぎみわ	Miwa Yanagi	1967年神戸（日本）生まれ、京都在住	
アレクサンダー・ザルテン	Alexander Zahltén	1973年ウィスコンシン州マディソン（アメリカ）生まれ、ボストンおよび京都在住	◎

＊2015年1月現在 ＊◎マークは今回追加作家

ヘトヴィヒ・フーベン Hedwig Houben

1983年オランダ・ボクステル生まれ、ブリュッセル(ベルギー)在住
www.hedwighouben.nl



Video still from Hedwig Houben, *The Hand, the Eye and It*, 2013. Performance lecture. Video by Bas Schevers. Courtesy of Fons Welters Gallery, Amsterdam

ブレダ美術アカデミー(オランダ)、デュッセルドルフ美術アカデミー(ドイツ)およびゼントのフランダース美術高等研究所(ベルギー)に学ぶ。フーベンはレクチャー／パフォーマンスという表現スタイルを用いながら、美術作品に係わる約束事などの関係性を解体していくプロセス自体を作品化する。最新作の《良いもの、悪いもの、幸福なもの、悲しいもの》(2014)は、類似しながらも対比的な2つのオブジェを使い、道行く人に意見を求めてそのアドバイスによって彫刻の形を変化させていくプロジェクト《好い彫刻と悪い彫刻について2》(2010)の発展形であり、事物が作者の手から離れて作品となる瞬間を探ろうとする試みと言える。出品作《手と目、そしてIt》(2013)はレクチャー／パフォーマンスの映像で、彫刻になる以前の不定形なオブジェ「It」と、作者、作者の視線と手、作品についての説明的な語りなどの美術作品を成立させる諸要素との間を媒介し関係付ける役割を、粘土で作った作家自身の手の複製に演じさせている。

ブランド・ジュンソー Brandt Junceau

1959年アメリカ・ニューヨーク州ボキプシー生まれ、ベルリンとニューヨーク在住



Installation view of Brandt Junceau, *Haengender*, 2011. Photo by Oliver Ottenschlaeger, courtesy of Sigmund Freud Museum, Vienna

1981年バード大学を卒業後、ニューヨークを拠点に彫刻やドローイング作品の発表を始める。1991年にGuggenheim Fellow in Sculpture とPollock-Krasner Artist's Grant から奨学金を得て、ローマのアメリカン・アカデミーにて滞在制作。2010年にはドイツ学術交流会(DAAD)の奨学金を得て、ベルリンで滞在制作。2014年にはウィーンのシークムント・フロイト博物館で個展「VANDAL」を開催。石膏から金型を制作し鋳造する通常の技法で彫刻を制作する一方で、古代から続く土偶のようなテラコッタの手法で、想像力を刺激されるカタチを反復する制作を行なっている。近年の展示では、精神的な時間や考古学的な遺物に対する関心から制作過程を作品の形態変化を通じて見せる構成をとっている。PARASOPHIAでは、京都市美術館で、1933年に収蔵品を展示するために作られた巨大な展示ケースから発想を得た二対の人体像《Liebespaar》(2015)を、堀川団地では仮面と顔の断片との一対で構成される《ミューズ》を展示する。

ラグナル・キヤルタンソン Ragnar Kjartansson

1976年アイスランド・レイキャピク生まれ、在住



Ragnar Kjartansson and The National, *A Lot of Sorrow*, 2013-14. Single-channel video. Performance still, Sunday Sessions, MoMA PS 1, New York, 2013. Photo by Elisabet Davidsdottir, courtesy of the artists, Luhning Augustine, New York, and i8 Gallery, Reykjavik. © Ragnar Kjartansson and The National

アイスランド芸術アカデミーで絵画を学ぶが、卒業後間もなくパフォーマンスアートに関心が移る。2009年ヴェネツィア・ビエンナーレでアイスランド館、2011年パフォーマ11ではマルコム・マクラレン賞を受賞。欧米で多数の個展とグループ展に参加すると同時にいくつかのハプニングやパフォーマンスを行い、2013年にはスウェーデンのヨーテボリ国際現代美術ビエンナーレの共同キュレーションを担う。アメリカ初の個展「Song」は2011-12年にペンシルバニア州ピッツバーグのカーネギー美術館、フロリダ州のノースマイアミ現代美術館、ICAボストンを巡回。キヤルタンソンは音楽家としても活動しており、コウシーを始めとして、カナダ、トラバント、ザ・フューネラルズを経て現在のバンド、ラグナル・キヤルタンソン&ザ・オールスター・バンドに至る。PARASOPHIAでは、ニューヨークのMoMA PS1の『サンデー・セッションズ』シリーズでバンド、ザ・ナショナルが「Sorrow」(悲哀)という曲を105回も繰り返し演奏した6時間に及ぶ映像作品《たくさんの悲哀》(2013-14)を出品。

倉智敬子+高橋悟 Keiko Kurachi & Satoru Takahashi

倉智敬子：1957年大阪生まれ、在住
高橋悟：1958年京都生まれ、大阪在住

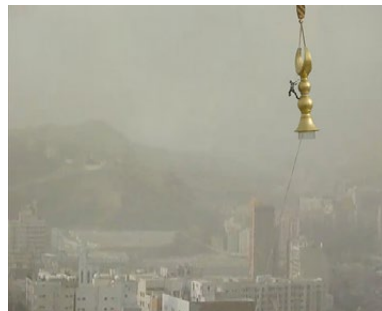


Temporary Foundation《法と星座・Turn Coat/Turn Court》2014 ヨコハマトリエンナーレ2014での展示風景 写真：来田猛

高橋はイエール大学大学院卒業、倉智はコロンビア大学大学院卒業。「生存の技法(私たちが生きてゆくための創造的な技術)」という視点から身体・知覚・言語の関係を再配置し、医療・生命・環境や制度を包括する芸術の研究・制作のプロジェクトを、カリフォルニア工科大学、ミシガン大学、京都大学、京都市立芸術大学など国内外の研究機関や研究者らとともに展開している。PARASOPHIAでは、関係性と意味が解体され漂白された法廷と監獄の白い構造体、庭石、白い海図が配置されたパラドキシカルな空間(コトバの迷路)が広がるプロジェクト《装飾と犯罪—Sense/Common》(2015)を展示。展示室の突き当りに鏡を全面に貼り付け、鑑賞者の立ち位置を感覚的に錯乱させる空間をつくり、鏡の先には、ノイズ／声とともに上昇し地表を俯瞰する映像が投影。鏡で区切られた「こちら」と「あちら」の境界を線として浮かび上がらせる。不均一なこの展示空間は、鑑賞者の視点を流動化させ、区画・領域・権力・言語などについて自問し、思考と検証を繰り返す場所となる。

アフメド・マータール Ahmed Mater

1979年サウジアラビア・タブーク生まれ、アブハ、ジッダおよびメッカ在住
ahmedmater.com



Still from Ahmed Mater, *Leaves Fall in All Seasons*, 2013. Film, 20 min. Courtesy of Ahmed Mater and Athr Gallery

キング・ハーリッド大学で医学を専攻しながら、アル・ミフターハ芸術村で美術を学び、現在は、医師と芸術家として活動。マータールの芸術家としての活動は作品制作だけではなく、サウジアラビアの若手芸術家集団「イブン・アシール」のリーダーでもあり、中東と西洋の世界をつなぐ現代美術の非営利組織「エッジ・オブ・アラビア」(2003-)の創設者でもある。ヴェネツィア・ビエンナーレ(2009・2011)、シャルジャ・ビエンナーレ(2013)、ベルリン国際映画祭(2014)などに参加。日本では森美術館で開催された「アラブ・エクスプレス展：アラブ美術の今を知る」(2012)に出品。2014年にはシャルジャ美術館で個展を開催。出品作《Leaves Fall in All Seasons》(2013)は、メッカ周辺で近年行われている大規模な再開発工事の模様を、現場の移民労働者たちが携帯電話で撮影した動画をマータールの電話に転送、それにネット上で流通する動画を寄せ集めて作品化したものである。イスラム世界の聖地メッカが物理的・文化的に変貌する姿を、移民建設労働者の視点で撮影した、公式には語られることのないメッカ近代化の別のリアリティの記録となっている。

森村泰昌 Yasumasa Morimura

1951年大阪生まれ、在住
www.morimura-ya.com



森村泰昌《侍女たちは夜に甦るV: 遠く光に導かれ闇に目覚めよ》2013

グシュタヴォ・シュペリジォン Gustavo Speridião

1978年ブラジル・リオデジャネイロ生まれ、在住



From Gustavo Speridião, *The Great Art History*, 2005-15

ジャン＝リュック・ヴィルムート Jean-Luc Vilmouth

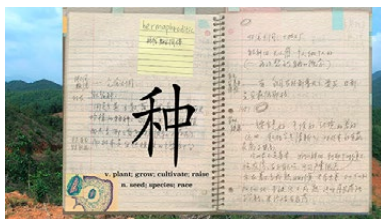
1952年 フランス・クレウツヴァルド生まれ、パリ在住



Jean-Luc Vilmouth, *Café Little Boy*, 2002. Work in three dimensions. Installation view at Centre Pompidou, Paris, 2014. Collection of Centre Pompidou, MNAM/CCI, Paris (purchased in 2005). Photo by Jean-Luc Vilmouth

徐坦(シュー・タン) Xu Tan

1957年中国湖北省武漢生まれ、
広州とニューヨーク在住



徐坦「社会植物学プロジェクト」2013《種》からのビデオスチル

アレクサンダー・ザルテン Alexander Zahlten

1973年アメリカ・ウィスコンシン州マディソン生まれ、ボストンおよび京都在住



Parasophia Conversations 01: アレクサンダー・ザルテン×北野圭介
「21世紀のイメージ・トラフィックを考える」京都芸術センター
2014年11月16日

京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。美術史上の名画の人物や有名な映画女優、20世紀の歴史を動かした人物などに扮装する「自画像的」な写真作品を一貫して制作する。「森村泰昌展 美に至る病—女優になった私」(横浜美術館、1996)、「森村泰昌【空装美術館】絵画になった私」(東京都現代美術館ほか巡回、1998)、「Requiem for the XX Century. Twilight of the Turbulent Gods」(La Galleria di Piazza San Marcoほか巡回、2007-08)など個展を多数開催。2014年には「華氏451の芸術: 世界の中心には忘却の海がある」と題して、ヨコハマトリエンナーレ2014のアーティストックディレクターを務めた。PARASOPHIAでは、美術館の空間を題材に扱った二つのシリーズを京都府京都文化博物館別館に展示。「侍女たちは夜に甦る」(2013)は、ペラスケスのミステリアスな名作《ラス・メニーナス》が飾られている閉館後の静まったブラド美術館を舞台にした作品。もう一方の「Hermitage 1941-2014」(2014)では、第二次世界大戦時に作品が疎開し額縁だけが残されたエルミタージュ美術館をテーマに、肉眼では見えない現在と過去の交錯を表現する。

リオデジャネイロ連邦大学国立芸術学校にて視覚言語修士課程修了。写真や映像作品のほか、雑誌など既存のメディアに言葉や絵を上書きしたドローイングやコラージュなどを制作。今回の出品作は、アメリカのグラフィック誌『LIFE』の1936年創刊時から20世紀後半の608ページにおよぶ膨大な記念写真集『The Great LIFE Photographers』に、らくがきのような言葉や絵を上書きして作られた『The Great Art History』(2005-15)。「LIFE」誌上で活躍した100人以上の写真家たちが切り取る20世紀の象徴となった歴史的場面や誰もが知る有名な写真を、一目でわかるブラックジョークや複雑な読み込みを可能にする落書きによって変換させ、別の「素晴らしい」美術史というフィクションを積み上げる。大文字の美術史や美術の形式への、あるいは政治や社会への皮肉だけでなく写真を読む作法に対する批判でもあり、様々な既存概念を飛び越えるユーモアでもある。PARASOPHIAでの展示が、アジアで初めての発表の機会となる。

ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)を卒業後、80年代からヴェネツィア・ビエンナーレ(1982)やドクメンタ7(1982)など、数多くの国際展に参加。次第に公共空間や、作品の介入により変化する人と事物との関係、環境の変容に注目した作品を数多く制作するようになり、その表現方法はインスタレーションやパフォーマンス、映像作品など多岐にわたる。ヴィラ九条山(京都)でのアーティスト・イン・レジデンス(1997)、1997年に個展「魅惑のバー」(スパイラル)の開催や、近年は東日本大震災後の宮城県での作品制作など、日本国内での活動も精力的に行っている。PARASOPHIAでは、『カフェ・リトル・ボーイ』を展示。この作品の原型は2002年に開催された「ヒロシマ・アート・ドキュメント2002」(広島)で発表され、のちにボンビドー・センター(フランス・パリ)のコレクションとなる。いま同館で開催中の「歴史: 1980年代から今日までのアート、建築、デザイン」(2014-16)でも公開されている。この作品は、原爆投下で大きな被害を受けた広島市立袋町小学校西校舎外壁に残された被爆者への伝言から着想された作品である。

1989年広州美術学院油絵科修士課程修了。中国初の国家級経済技術開発区の一つを設置された広州の急激な都会化に伴う問題を中心的に取り上げた作家集団「大尾象工作組」に1993年から参加。昨今のマーケット主導の中国現代美術界とは距離を保ちながら、詳細な調査と深い思考を重ねる一貫した作品実践によって、社会理論学の領域にまで踏み込む作家。これまでベルリン・ビエンナーレ2001、光州ビエンナーレ2002、ヴェネツィア・ビエンナーレ2003・2009、広州トリエンナーレ2005、そして深圳彫刻ビエンナーレ2014など多数の国際展に参加。2012年に「社会植物学プロジェクト」を開始。香港の屋上菜園や広州の水上生活者の畑など、都市住民と植物との関係性についての調査を続けており、農家や官僚、美術関係者など、珠江デルタを中心に50人以上のインタビューを行い分析。PARASOPHIAには《社会植物学——種と血筋》を出品。京都での調査内容と併せて、マルチチャンネルのビデオインスタレーションとテキストなどの素材を組み合わせた「読書空間」として京都市美術館で展開する。

ハーバード大学東アジア言語・文学部准教授。ヨハネス・グーテンベルグ大学マインツ(ドイツ)映画学博士課程修了。2003年から2005年まで日本大学で論文研究を行い、2009年から2011年まで明治学院大学言語文化研究所特別研究員。トングク大学(韓国)映画デジタルメディア学科准教授(2011-12)を経て、現職。1960年代以降の東アジア、特に日本の映画や視覚文化について、歴史的・政治性のさまざまな観点から考察し、ピンク映画や角川映画、Vシネマのような大衆映画における普及システムの変遷などをテーマに論文を執筆。PARASOPHIAでは、京都府京都文化博物館フィルムシアターを会場に、1960年代から近年までの日本映画を中心に取り上げる。娯楽映画、ドキュメンタリー、実験映画を通じて、日本映画が自国と他国を映画でどう表象してきたかを検証する今回のシネマプロジェクトは、当事者が客観的に語るには複雑過ぎる「東アジアの近代」の物語を、非当事者であるザルテンが選んだ映画の連鎖が紡ぎ出すメタ物語として、当事者である私たちが再読する試みである。

広報画像の使用について



Pipilotti Rist, *Gigantic Pear Log*, 2014. Still from Video installation. Courtesy the artist, Lühring Augustine NY and Hauser&Wirth.



蔡國強「農民ダ・ヴィンチ」2013 サンパウロ、ブラジル
銀行文化センター屋外での展示風景 Photo by Joana França



やなぎみわ『『日輪の翼』上演のための移動舞台車』
2014 写真: 沈昭良



Lisa Anne Auerbach, *American Magazine*
#1, 2013. Ink on paper. Installation
view with mega-girls, Los Angeles
Municipal Art Gallery, 2013. Photo by
Lisa Anne Auerbach, courtesy of Lisa
Anne Auerbach and Gavlak. © Lisa Anne
Auerbach



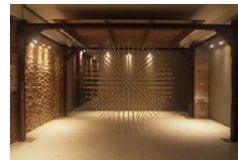
Still from Aernout Mik, *Touch, rise and fall*, 2008. Video installation. Courtesy of the artist and carlier | gebauer



Susan Philipsz, *The Distant Sound*, 2014. Three-channel sound installation. Installation view, Moss, Norway, 2014. Photo by Eoghan McTigue. © Susan Philipsz



PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015
オープニング・プログラム03[レクチャー
/パフォーマンス]ドミニク・ゴンザレス=フ
ォルステル「M.2062 (Scarlett)」京都府京都
文化博物館別館 2015年9月6日 写真: 林
直 提供: PARASOPHIA事務局



Installation view of Arin Rungjang, *Golden Teardrop*, 2013. Video installation. Photo by Kornkrit Jianpinidnan, courtesy of the artist and the Office of Contemporary Art and Culture, Thailand



Still from Joost Conijn, *Vliegtuig (Airplane)*, 2000. Video, 29 min.



森村泰昌《侍女たちは夜に甦るV: 遠く的光に導かれ闇に目覚めよ》2013



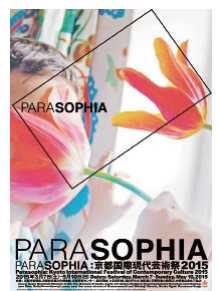
Video still from Hedwig Houben, *The Hand, the Eye and It*, 2013. Performance lecture. Video by Bas Schevers. Courtesy of Fons Welters Gallery, Amsterdam



From Gustavo Speridião, *The Great Art History*, 2005-15



PPPポスター



チラシイメージ

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015の広報用画像をダウンロードできるページをご用意しております。

印刷用の高解像度画像(350 dpi/CMYK)とオンライン用画像(1024 px/72 dpi/RGB)の2種類からお選びいただけます。下記ウェブサイトよりご登録の上、ダウンロードください。サイズの大きな画像、また掲載していない画像が必要な場合は広報担当宛にお問い合わせください。

www.parasophia.jp/press

PARASOPHIA: 京都国際現代芸術祭2015 の取材・撮影をご希望の方は下記お問合せよりお申し込みをお願いします。
京都国際現代芸術祭組織委員会事務局 (PARASOPHIA事務局)

広報担当: 大西 MOBILE: 080-9684-9100 E-mail: press@parasophia.jp